

「間違った情報を信じて友達を悲しませ、苦しめていませんか」

この言葉は、人権教育シリーズNO304で紹介しました藤井輝明先生の言葉です。先生は、顔に病気や傷などを抱える人たちに対する偏見をなくすために、小・中・高校などの講演・交流活動をはじめ、高齢者福祉入浴活動など幅広い社会活動をしていらっしゃいます。

先生が熊本大学医学部保健学科教授のとき、ある学校での人権問題講演会で、幼少時代の頃のエピソードを交えながら人権について次のようなことを話されました。

私には、海綿状血管腫という病気で顔の右側に大きな腫れがあります。この腫れは、皮膚の下の血管や筋肉が増殖し広がっていく病気で、手術した後もまた腫れてきます。人に移る病気ではありません。小さい頃、いじめっ子から「化け物」とか「腫れがうつるから来るな」とか「触ったら指が腐る」等言われていました。いじめがひどいときは、「いじめられたら殴り返す」と思っていました。決して殴り返したりはしませんでした。

た。それは、「いじめは、いじめをする人が100%悪いのです。いじめは暴力と一緒にさしやいたわりがない人間だと自分で言っているのと同じです。哀れな人です。どんな理由があっても、いじめ返すことも100%悪いことです。あなたが殴り返したら暴力の連鎖を生むだけです」と言う母の教えを守り、何を言われてもいつも笑顔でいました。すると、いじめっ子は「いじめても泣かないから面白くない」と言っていました。やめました。こんな幼少時代の経験から学生には「正しい知識と情報を知るため勉強すれば、間違った情報に振り回されることはない。間違った情報を信じて友達を悲しませ、苦しめてはいけません。」と語っています。

心豊かなまちづくりのために

先生は「顔に障がいがあるからこそ、分かったことや見えたことに気づいた。この障がいなければ一生、気づかなかったかもしれない」とか「自分を丸ごと受け入れることができれば、それまで見えなかつた世界や幸せが見えてくる」と語られます。話を聞くといつも元気が出ます。勇気が湧いてきます。

先生は、海綿状血管腫と向き合いながら常に前向きに生活してあられますが、障がい者問題は本来、社会全体で解決していかなくてはならないことです。容貌障がいだけでなく自閉症などの発達障がいや精神障がいについても社会的認知が必要です。

「いじめは、いじめられる側が100パーセント悪い。いじめめる子は自分に自信がない子」といじめに負けずに強く生きるこの大切さを熱く語られる先生の生き方に深く感銘を受けました。

益城町教育委員会

あなごの地を巡る

歴史の変遷と地名

306

四月八日村長八佐伯良間氏ト受負契約ヲナシ、総工費六千貳百圓ヲ以テ今年六月全ク竣成ヲ遂ゲタリ。箕田稔 撰

佐伯良間 濱田貞雄
橋梁委員

発 箕田 茂 大場龜彦
記 永田平蔵

人 下区長 澤田軍記
氏 上区長 小堀又雄

名 中区長 松本又平
西区長 淵上秀吉

昭和四年十月廿六日
村長 西村太郎吉
村会議員 箕田 茂

永田平蔵
小堀又雄

この記念碑は幅約36呎四方高さ148呎で、木山川(現秋津川)の右岸平田橋の袂、塘の土手下に、知る人も無く鳶鷹に覆われて凝然と建っています。

この碑文を筆者が読んだのは平成元年七月二十五日の約二十年前で、風化の為の判断困難を考え敢えて全文を記しました。本文は句読点もないベタ書きなので適当に句読点を入れました。「地の塩」と言う諺があります。これは「新約聖書マタイ伝第五章」から引かれ、塩が勝れた特性を持

つ事から転じて、社会の腐敗を防ぐのに役立つとの意味です。ひいては地域社会に役立つとの意味にも取れましよう。この記念碑に記されたのは地の塩として地域社会の為に真摯に献身努力された人々の記録です。

昭和二十八年六月二十六日の大水害は、平田付近で木山川が流路を変える程の被害を与えました。その為現況は当時と大きく変わっていますが、ただ木山川の左岸が決壊したためこの記念碑は残り、先人の功績を後世に知らしめる事が出来ました。



鳶鷹に覆われて知る人も無い記念碑

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策